

振り返る時間

T: 今までどんなことを学習しましたか?

C: 戦争の人々の暮らし、札幌の空襲について

C: 坂東さんについて 被害者は1人だった

C: 緑色の服は安全だった

T: 誰に教えてもらったんだっけ

C: 苫小牧のおじいちゃん。白は飛行機から目だって見えて危険だった
聞き取り調査の内容が発表されていた。

課題をつかむ時間

・黒板にマスキングされた表を掲示

T: 隠してあるのは何だと思いますか?

C: 回数、空襲の回数。(1箇所目)

C: 被害者の数だと思う。(2箇所目)

T: どうして?

C: 札幌の被害者が1人。広島の人数が原爆の被害者の数と似ていたから

T: これは何でしょう。(3箇所目) 実施と書いてありますが、何を実施したのでしょうか?

C: 訓練だと思う

C: 疎開だと思う

T: 札幌に疎開は必要ですか?

C: 必要ないと思う。1回の空襲で、被害者も1人だから

C: おばあちゃんは疎開していなかったから、無かったと思う

マスキングされた項目を予想させる活動を通して、既習を生かして札幌の空襲を他都市の空襲と比較し、札幌の疎開の有無を考えることができていた

T: 答えは新聞の記事の中にあります。(新聞記事を掲示) この新聞が読めますか?

C: 読めない。(古い記事のため、子どもには理解しがたい)

T: そこで、先生が読みやすい文章にまとめました。(教師が新聞の内容をまとめた資料を掲示)

C: 予想と違って、疎開があったんだ

T: 「どうして札幌市は学童疎開を進めたのか」(教師が課題を板書) なにか付け足せない?

C: 「1回しか空襲がないのに」だと思う

T: では、自分の考えを書きましょう

新聞記事のコピーを掲示することで子どもの関心を高め、内容をまとめた資料を掲示することで疎開の事実と概要を子どもたちが理解できた。また、空襲が1回しかなかったことを、教師が子どもへの関わりで印象付けた。

課題を追求する時間

T: どうして学童疎開を進めたと思いますか?

C：1度あれば、2度目もあるかもしれないから
C：他の地域と比べて、被害が少ないからもう1度あると思った
C：東京よりも回数が少ない
C：札幌もこれから空襲が増えると考えた
T：ほかの地域のように、これから増えてくるかもしれないと考えたんだね
C：子どもは役に立たないから
C：子どもは未来の兵士だから
C：これから兵士になる子どもたちを安全な場所に行かせようとした
C：未来のために子どもを救いたい
T：子どもは戦力にならないのですか？
C：大人よりも力が弱い。今の自分が戦えと言われたら無理だ
C：親は子どもがいることで気になって戦えなくなる
T：大人が戦いやすくするために、子どもを疎開させるのですね
C：子どもがいると非難するのも遅い。いないほうがいいよ
T：子どもがいないほうが非難も楽なのですね

ここまで、空襲が増えると思っていた、子どもを助けるために疎開を決めた、といった客観的な考えが発表された。未来の兵士である子どもを守るため、という考えには、参観者からその後の検討会で驚きの声が上がっていた。

T：疎開をすると命が助かるのは誰ですか？

C：子ども

T：みなさんの家族は、あなたたちを疎開させなければならなくなったらどうするのでしょうか？

C：させないと思う。

C：私が親だったら、させたくない

C：させたくないと思うけど、強制だったら仕方なくさせるかもしれない、でも本当は嫌だ

T：みなさんを疎開させる時、家族はみなさんにどんなお別れの言葉をかけるのでしょうか？

もし自分が疎開するとしたら、自分と自分の家族はどのような思いをするのか、自分の身になって考える話し合いが続いた。「また生きて会いたい」、「死ぬならいっしょに死にたい」、「生きていて欲しい」、「兄弟の面倒を父親代わりになってみてくれよ」など、子どもたちが自分を疎開する立場の子どもに置き換えて考えている様子が十分に見られた。

まとめる時間

T：今まで自分の立場に置き換えて考えてみたけれど、このころの子どもたちはどんな思いをしたと思いますか？

C：つらい、かなしい

C：こわい

T：何がこわいですか？

C：親とはなれて過ごすのがこわいと思う

C：さみしい

T：だれがさみしいですか？

C：親も、子どももさみしい

T：子どもたちの命を守り、大人が戦いやすくするのが疎開でした

C：子どもは大切な戦力だから守る...、という考えもあると思う

T：そういう考えはありそうですか

C：(うなづき)

T：女の子は長刀の訓練をしていましたね。(写真掲示)男の子は鉄砲を使う訓練をしていましたね。(写真掲示)未来の日本の兵士を守るための疎開ではないか?といったことがわかってきました。

T：たった1回の空襲だったけど、人々の心には大きな影響を与えたのですね。

T：最後に2つ。今回見た新聞は、1945年8月10日、後5日で終戦だった日の新聞です。ですから実際には疎開は行われなかったようです。もう1つは、このころ札幌にも原子爆弾が落とされるのではないかと噂が流れました。1回の空襲でも、これだけ大きな影響があったのですね。